

第 8 号

1990年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡 (哲西町) 出土特殊器台文様



岡山市津寺遺跡野上田調査区

古代の大規模護岸施設を確認

津寺遺跡は、県下最大の規模を誇る造山古墳の東方約1.5km、現在の足守川の東岸に位置します。当遺跡は、弥生時代前期から中・近世に至る集落遺跡で、現在、山陽自動車道建設に伴い発掘調査が行われています。その中の野上田調査区は、現在では水田が広がっていますが、かつてはここを川が流れていたことがわかりました。昭和63年から平成元年にかけての調査では、この川に関連した大規模な護岸施設が確認

されました。今回は、この護岸施設について紹介します。

確認された川は、幅約50mで、北から南に流れたと考えられます。護岸施設は、その川の両岸で確認されました。右岸の方は小規模でしたが、左岸の、流れが緩やかに西へカーブする地点の方はきわめて大規模なものでした。ここは、水流が岸に強く当たる部分であったと思われます。この大規模な護岸施設は、主に盛土と杭列



津寺遺跡周辺地形図 (1/40,000)

からできたいわば人工の岸で、その工事は、大きく2つの段階に分かれます。第一段階は、川岸の斜面に砂利などを盛り、横木をわたしながら杭を打ち込み、再度盛土を行うという作業を繰り返し行い、南から北へ真っすぐのびる、長さ56m以上の岸を造り上げています。なお、南端は、下流の微高地には達しておらず、小川が東から流れ込んでいます。また、北は調査区外にのびています。盛土を行う際には、間に樹皮(スギの皮)・ヨシなどを敷き並べたり、枝(粗朶)を組むなどの作業を何度も行っています。前者は、主に川の側(表法)に施されており、盛土内の排水の役割を果たし、盛土が流れ出すのを防止する効果があったものと考えられます。後者は、主に反対側(裏法)に施されており、水が岸を越えて裏法を洗い削るのを防止する効果があったものと考えられます。杭は、長さ1~1.5mのものが多く、ほとんどがアベマキをみかん割りにした材を利用しています。横木も、径2~10cmのアベマキの枝や幹を利用しており、

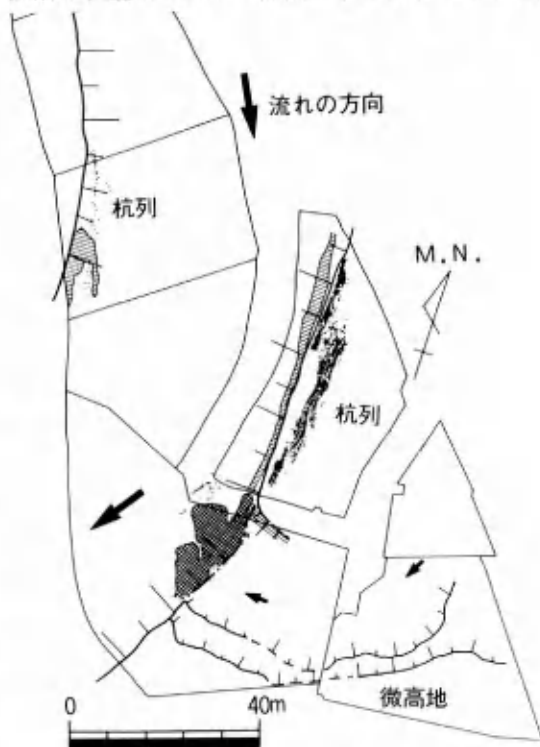


盛土中のスギ皮



護岸施設の検出状況

長さ数メートルに及びます。この杭列にも、盛土が流れ出すのを防ぐ効果があったものと考えられます。最終的に、盛土の厚さは0.7~1.5m、杭列の幅は2~5mとなっています。この段階は、杭列の横木の方向から、真北方向を意識して工事が行われています。また、水に強い性質などを持つアベマキを選んで、みかん割りにして大量の杭を作っていることや、多量のスギの皮を用いていることなどは、この工事が、計画的に実施されたことを示しています。第二段階は、盛土・ヨシ・枝組が中心となっており、



津寺遺跡護岸施設周辺概略図

第一段階の護岸の南端と微高地との間の約25mにわたっています。ここは、水流による洗掘をよく受ける場所でもあり、そこを埋め、東からの小河川を締め切るように盛土が行われています。盛土中の枝組は、やはり洗掘を防止する効果があったと考えられます。さらに、この部分の前面には、岸に当たる水流を弱めるために川の中にも杭列を施すといった念の入れ様です。

この護岸施設が造られた時期は、川の中の土などからみつかった土器や木器、土層の観察から、今からおよそ1,400年前頃（7世紀）と考えられます。この後、護岸施設の上には土砂の堆積が進み、平安時代には埋没していたようですが、川の方は、流れを弱めながらも中世までの間、同じ場所を流れ続けていたようです。

護岸施設の上端は、同時代の生活面より1m以上低かったと思われます。また、施設の背後の場所が、生活したり、生産を行えるような環境ではなかったと考えられます。このような点から、この施設の造られた目的は、川の流れを良くし、水深を保ち、自然な状態の川を利用しやすい安定した川に改良することにあつたと考えられます。その直接のきっかけは、はっきりとはしませんが、結果として船の往来や灌漑に便利で、洪水時に水害の起きにくい川になったと思われます。

以上のように、この護岸施設は、大規模で、なおかつ非常に高度な工夫をこらしたものであることが明らかになりました。また、多大な労力を必要とする川の制御が、「信玄堤」に代表されるような戦国大名による河川工事や、現在の高々とした堤防やコンクリートの護岸などよ

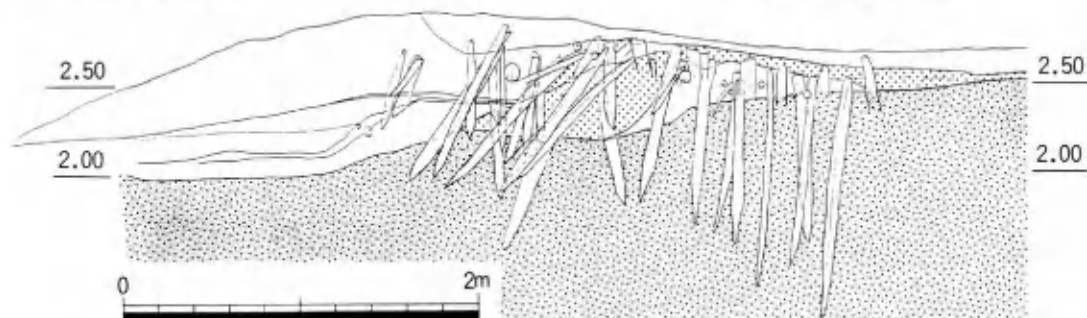


護岸施設の断面

りはるかに古くから行われていたことがわかりました。今回のような例は全国でもほとんど発掘調査されておらず、たいへん貴重な資料であり、私たちの祖先がどのようにして川を治め、利用していたかを物語る重要な証拠でもありません。奈良時代に編纂された『日本書紀』などには、それ以前に堤や池などが築かれていたということが記されていますが、現在のところそれらの構造はあまりわかっていません。今回の例が、そうしたものの構造を知るうえで（柴田英樹）手がかりになることと思います。



保存のための砂締め作業



護岸施設断面図

センターの年間事業 (平成元年度)

調査第一課

本年度調査第一課は、旭川放水路改修事業に伴う百間川遺跡群の調査に3名、中国横断自動車道建設に伴う調査に6名(内2名は1月～3月は山陽自動車道備前工事区、同岡山工事区担当)、デスク担当4名(内1名は文化課本務)の体制でそれぞれ事業に従事した。

百間川遺跡群(岡山市)は、報告書作成を中断し、調査のみに専念することとなった。調査は、原尾島遺跡の低水路掘削区を主要調査区として樋門工事区、ならびに高水護岸工事区を要則的に対応した。それぞれの調査区で弥生時代の水田跡、溝を検出した。低水路調査区では、古墳時代の住居跡に伴う鉄剣形銅剣が出土した。

中国横断自動車道建設に伴う調査は、川上村、湯原町、久世町管内にそれぞれ2名の調査員が専任する班分けで、4月から出発した。

下郷原和田遺跡(川上村)は、蒜山地方では初めての弥生時代後期から古墳時代中頃の集落跡を調査した。中でも弥生後期の玉作りを伴う住居跡を検出し話題を集めた。久世町内では上野遺跡、木谷古墳群(9月から)、大内原散布地(第1次)、中原古墳群1基を調査した。木谷古墳群11号墳は、新発見の古墳であるが、装飾付脚付子持壺(脚部欠損)をはじめとする40数点の須恵器の他、トンボ玉1などの副葬品を出土した。山間部の小規模な横穴式石室墳であったが注目される古墳である。

デスク担当とする緊急調査ならびに市町村指導の調査は年々増加の一途をたどっているが、



上熊谷土居遺跡 掘立柱建物



岡山城二の丸跡 屋敷境の溝

担当する人数は変わらず、その調整に苦慮しているのが現状である。

新見市上熊谷土居遺跡は、この地域の有力商人田治部氏の本拠地として、既に昭和61年度において県道改良工事に伴って屋敷跡の一部を調査した。今年度は、この一帯の水田の圃場整備事業が計画され、確認調査後の保存協議において、保存困難な地区の発掘調査となった。その結果、県道調査区の東側山麓において、掘立柱建物と土器溜を検出した。建物は3×5間で北側に廂がつく大形の建物で、柱材もよく遺存していた。時期は中世後半ないし戦国期に比定されている。小規模な発掘調査とはいえ中世遺跡の究明に新知見を加えた。

岡山城二の丸跡の調査は、県庁舎の増築に伴う発掘調査である。工事と併行する切迫した短期間の調査であったが、幕末期の屋敷境の溝、建物、井戸等を検出し、文久三年の絵図と整合することが判明し話題となった。また、最下部では、4基の鍛冶遺構を検出した。伴出遺物から16世紀末に位置付けられ、岡山城築城時の遺構群として注目された。(河本 清)

調査第二課

1989年度における調査第二課の組織は、3係9班制をとり、総数25名の調査員でおもに山陽自動車道岡山ジャンクション部の重複遺跡、津寺遺跡の調査にあたった。ここでの調査面積は約25,800㎡である。昨年調査結果を前号で報じたとおり、このうえなく遺構密度が高く、砂

混り粘土の基盤層と遺構内の埋土との織別に困難をきわめたが、ようやく微高地の全体的な大きさ、その周辺低地に広がる水田の様相、および微高地上に営まれた竪穴住居の規模と数はもとより、袋状をふくむ土壌のあり方や水路の走り具合などより鮮明にとらえられ、一集落の実態に迫りうる貴重な資料の蓄積をみたといえる。

まず微高地の大きさからいえば、北端は7世紀代の河道でえぐられ、南縁は徐々に下がって水田址へと続く原状から推して、南北長約300mと考えられる。対する、西は低位旧河道によって画されるいっぽう、東は南縁と同じく外方へ傾斜しつつ水田址へと接し、その間の東西長は210mばかりとなる。集落を取りまわくいわゆる環濠はなく、安定した自然地形の微高地そのものが一つの集落をなすものと思われ、総面積はおよそ6haに復原できようか。微高地の中央やや西よりに幅約6mの農耕用幹線水路が南流する。この水路は、弥生時代中期（菰池式期）に開墾されてのち確実に古墳時代初頭（亀川上層期）まで数次にわたって底ざらえをあるいは肩の掘り返しを重ねつつ、長く集団的に維持管理されていたようである。この水路と不可分の水田址は南西方向に展開するらしい。微高地上で検出された竪穴住居址の総数は236軒。その内訳は円形プランの弥生時代中期のもの4、同じく弥生時代後期のもの14、古墳時代初頭（亀川上層期）に属する方形プランのものが201と全体の85%強を占めるほか、古墳時代後期のカマド付き方形プランのものが17を数える。したがって、この集落の盛期は古墳時代のはじめごろ、およそ4世紀初葉にあったものと考えてよ



津寺遺跡 (M5 地区) 竪穴住居群

く、さらに、その内に後年次対応の植栽部約6,000㎡が含まれるから、当該期の竪穴住居址の数は現状の倍数400軒前後と推察して、誤りないであろう。住居址のあり方のほかまた特に注目されるのは、袋状を含む土壌の数がおびただしい点であり、総数100基をこえ、土器片を検出できない若干の例があるとはいえ圧倒的多数のものは弥生後期初頭（上東式古段階）に帰属するらしく、同期の竪穴住居址が意外と稀薄な事実と照らしあわせ、面白い現象といえる。



津寺遺跡 (M8 - 1 地区) 官衙遺構

つぎに昨年来、奈良時代（8世紀代）の官衙遺構の一部が検出されて注目を集めたが、本年度は外郭線をなす二条一対の藪状溝の北西角および南西角をみとめたうえ、正面の奥あたりで大型方形掘り方をもつ建物址数軒が新たに見つかったもののいずれも総柱の倉庫址と思われ、正殿または後殿と断定できる立派な建物址はなく、したがって主要官衙跡で一般的なコの字型配置をとる、建物群の並び方をここで想定することはむづかしい。

以北の丸田調査区においては、平安時代から室町時代にわたる各時期の集落址が検出されるとともに、数多くの出土遺物をみた。特筆に値するものに限って紹介しても、平安時代の公的祭祀を物語る大ぶりの陶馬の出土や、保存良好な鍛冶道具一式を副葬していた室町時代の土壌などがある。

さらにその北の土筆山調査区でも、平安時代から中・近世にかけての水田址、建物址、柵列、炉、井戸、土壌墓など各種の遺構・遺物を検出し、調査を完了した。

その他、甬崎天神遺跡や津寺古墳を完掘した



津寺遺跡(丸田調査区)土壌墓

のに加え、遠く東へ離れた岡山市玉柏で3基の後期古墳を発掘調査中であり、やがてその全容を明らかにさせる予定である。(葛原克人)

調査第三課

本年度における調査第三課は、山陽自動車道建設に伴う緊急調査として、高塚遺跡(岡山市高塚)の全面発掘調査と政所遺跡(岡山市加茂)の宮西調査区、立田調査区の一部を実施した。

足守川の右岸に所在する高塚遺跡は、東西方向にのびる微高地上に形成された遺跡であり、東から「角田」、「フロヤ」、「塚廻り」という小字名があるため、字名をもって調査区の名前にしている。各調査区では弥生時代後期前半から中世末に至る遺構が調査された。

弥生時代の遺構としては、竪穴住居址、方形、円形土壌が多数検出され、古墳時代では、竪穴住居址、溝、土壌などがある。竪穴住居址はカマドを付設したものと中央部付近に炉をもつものに分類できる。さらに、カマドは一辺のほぼ中間に付設されたものと角に付設されたものがある。特に角田調査区では竪穴住居址が多数検出されている。古代、中世では掘立柱建物、井戸、鍛冶炉、溝、土壌、土壌墓等の遺構が全域



貨泉

銅鐸片出土状況

にわたって認められた。古代の掘立柱建物は角田調査区で5棟、フロヤ調査区で3棟を確認しているが、時期についてはもう少し検討が必要である。中、近世の遺構は、特にフロヤ、塚廻り調査区で数多く検出している。とりわけ、フロヤ調査区では室町時代後半に溝で区画された東西38m、南北45mの屋敷地内に大形の掘立柱建物2~3棟、小形掘立柱建物数棟、石組井戸1基を配置していたことが確認でき、中世村落が復元可能となったことは大きな成果である。

なお、本遺跡で注目される遺物としては、銅鐸と中国の「新」の時代の貨幣である「貨泉」の出土があげられる。銅鐸はフロヤ調査区内の土壌内から出土したものである。その概要は前号(7号)を参照されたい。さらに、フロヤ調査区に接する角田調査区の西端でも柱穴状遺構から、袈裟樺文様の銅鐸小破片が出土している。当時の祭祀を考えるうえにも重要な発見である。



角田調査区発掘調査風景(東から)

「貨泉」はフロヤ調査区の西北部に位置する袋状土壌(直径約150cm・深さ約55cm)の最上層から24枚がまとまった状態で出土した。また、この土壌の上部を削平してつくられた古墳時代初めの竪穴住居址内からも1枚が出土し、合計25枚も出土した。同一遺跡からの出土例としては全国最多であり、しかも、弥生時代後期初めの土壌内から24枚が一括出土したことは、山陽地方における弥生時代後期の絶対年代を決めるうえで重要な資料となるものである。また、弥生時代後期後半の方形土壌から性格不明の棒状青銅器1点が出土している。古墳時代では特に角田調査区において、5世紀代の竪穴住居址内から韓式土器や陶質土器が出土しており、朝鮮半



フロヤ調査区中世遺構全景写真(西から)

島との関係を推察させる遺物が出土したことは注目される。

政所遺跡は津寺遺跡の東に位置し、ほぼ南北にのびる微高地上に形成された遺跡である。JR吉備線の東に位置する立田調査区では、弥生時代中期、後期の竪穴住居址、土壌等が検出さ

れた。宮西調査区は加茂宮の北西に位置する。遺構は弥生、古墳時代および中世のものが検出された。弥生時代中期は竪穴住居址、後期では竪穴住居址、土壌がある。古墳時代は土壌が検出されている。特に注目される遺物としては、銅釧と分銅形土製品がある。銅釧は弥生時代後期終末の方形土壌内から出土した。「有鉤銅釧」と呼称されるもので、ゴホウラ縦型立岩型に属する。岡山県内では初めての出土例である。(松本和男)



銅釧

普及啓発事業

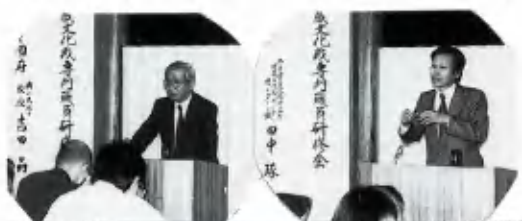
平成元年度 埋蔵文化財専門職員研修会

研修会は、県内行政機関の埋蔵文化財調査にたずさわる専門職員について一層の資質向上を図ることを目的に、隔年で実施しています。今年度は11月20日、49名の参加を得て、当センターで開催し、岡山大学教授吉田晶氏による「国司と国府」、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長田中塚氏による「文化財をどう生かすか」の講演を実施しました。吉田氏は、国司制の成立過程を中心に「クニ」から「令制国」

へ、「ミコトモチ」から「令制国司」への展開について述べられ、最後に、国府のあり方について地域差を考慮する必要があるとの見解を示されました。田中氏は、文化財とは何かという導入から、現代社会において文化財を生かすためにはペニシリン的機能を少し増す必要があることと、その活用について述べられました。

高塚銅鐸の一般公開

山陽自動車道建設に伴う発掘調査により、高塚遺跡から出土した銅鐸の一般公開を、10月2日から8日まで当センター展示室において行いました。会期中は、県内・外から800名を超える研究者や考古学ファン等が、熱心に銅鐸に見入っておられました。



埋蔵文化財専門職員研修会



銅鐸一般公開

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表(平成元年度)

遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間	面積(m ²)
1 矢知遺跡	御津郡御津町矢知	県道建設工事	中世集落跡	4.25～6.27	600
2 みそのお古墳群	〃 〃 高津	県営工業団地	弥生～古墳	7.14～10.13	600
3 赤浜散布地ほか	総社市赤浜ほか	県営圃場整備	弥生～中世集落跡	11.6～1.23	700
4 馬屋森向遺跡ほか	赤磐郡山陽町馬屋	県道改良工事	奈良～中世集落跡ほか	5.8～7.15	542
5 林原古墳群	岡山市牟佐	〃	古墳	8.1～10.30	200
6 立石遺跡	苫田郡鏡野町小座	国道改良工事	縄文～中世集落跡	8.1～8.11 11.6～12.22	1,000 2,300
7 津島遺跡関連	岡山市学南町	都市計画道路	弥生～中世集落跡	1.19～2.22	100
8 川面遺跡	高梁市川面	中学校校舎新築	弥生～中世集落跡	4.12～4.19	145
9 窪木散布地ほか	総社市窪木ほか	前川改修工事	弥生～中世集落跡	5.15～5.22	60
10 森元・国司遺跡	岡山市栢谷	岡山北バイパス	弥生～古墳集落跡	9.1～9.30	70
11 立田遺跡	〃 立田	排水機場建設	弥生集落跡	10.12～10.16	46.5
12 津山城外版跡	津山市山下	都市計画道路	近世城跡	11.15～11.16	65
13 岡山城二の丸跡	岡山市内山下	県庁舎増築	近世城跡	12.18～1.20	1,592
14 岡山城下近世屋敷跡	〃 〃	異文調査調査	近世屋敷跡	1.25	15
15 上熊谷土井遺跡	新見市上熊谷	県営圃場整備	中世集落跡	5.22～6.12 10.16～10.31	600
16 百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	旭川放水路改修	弥生～中世集落跡・弥生水田跡	4.1～3.31	2,400
17 百間川沢田遺跡	〃 沢田	〃	弥生水田跡	12.5～12.15	139
18 中山西遺跡	真庭郡川上村中山西	中国横断道建設	縄文集落跡・旧石器など	4.18～4.26	700
19 城山東遺跡	〃 〃 城山東	〃	弥生～奈良集落跡	4.1～5.30 10.3～10.24	900 2,100
20 下郷原和田遺跡	〃 〃 西茅部	〃	弥生～古墳玉作り関連集落跡	5.30～8.9	2,800
21 下郷原田代遺跡No1地点	〃 〃 〃	〃	縄文落し穴・弥生集落跡	6.28～8.10	3,100
22 下郷原田代遺跡No2地点	〃 〃 〃	〃	縄文落し穴・旧石器など	8.7～12.31	1,850
23 ドユタニ散布地	〃 湯原町樓	〃	散布地	5.24～7.1	320
24 茅森磯尾散布地	〃 〃 豊栄	〃	散布地	4.1～5.23	104
25 茅森大森散布地	〃 〃 〃	〃	散布地	7.11～8.11	234
26 小川古墳推定地	〃 〃 釘貫	〃	古墳は存在しない	8.17～8.29	122
27 大平散布地	〃 〃 社	〃	散布地	4.12～4.26 7.3～7.10	218
28 上野遺跡	〃 久世町櫻西	〃	縄文～古墳集落跡	4.1～2.9	6,731
29 定池古墳	〃 〃 〃	〃	古墳は存在しない	11.27～11.30	19
30 木谷古墳群	〃 〃 目木	〃	弥生集落跡・古墳・中近世墓	9.1～3.31	3,100
31 大内原散布地	〃 〃 〃	〃	中世集落跡	1.8～1.31	200
32 中原古墳群	〃 〃 中原	〃	古墳	2.13～3.31	250
33 実教寺北遺跡	赤磐郡瀬戸町鍛冶屋	山陽自動車道	奈良～平安集落跡	1.1～3.31	365
34 実教寺南遺跡	〃 〃 大井	〃	散布地	1.1～3.31	200
35 津寺古墳	岡山市津寺	〃	古墳	4.1～4.28	240
36 雨崎天神遺跡	〃 雨崎	〃	古墳～中世	5.8～6.26	266
37 三手・津寺遺跡	〃 三手・津寺	〃	弥生～中世重複遺跡	4.1～3.31	29,403
38 高塚遺跡	〃 高塚	〃	弥生～中世重複遺跡	4.1～3.31	15,931
39 政所遺跡	〃 政所	〃	弥生～中世重複遺跡	5.22～11.15	754
40 平瀬古墳群	〃 玉粕	〃	古墳	12.1～3.31	1,000
41 窪木散布地ほか	総社市窪木ほか	県立大学建設	弥生～中世集落跡	3.2～3.13	465



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

- 交通案内
- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
 - ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
 - ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分